

令和 8 年度 道徳教育 全体計画

学校 番号	47	諏訪実業 高等学校	定 課 程	普 通 科
----------	----	--------------	-------	-------

学校教育目標	道徳教育の重点目標
1. 定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会信頼される人間として自立し、貢献できる人材を育成する。 2. 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てる。	・差別のない明るい社会を実現するために、教育基本法並びに本校の校訓（誠実・自発）の精神および教育目標に立脚し、民主社会の良き形成者として人権を尊重できる人間の育成を目指す。 ・命の大切さ、互いを思いやる気持ち、いじめ問題、携帯電話の利用、インターネット社会における人権感覚、平和の尊さ、働く者の権利、国内外におけるさまざまな差別の歴史と実態など、日常の教育の諸活動を通して、人権感覚を涵養する。
重点目標	
① アルバイトの奨励 ② 少人数学習による基礎基本の徹底 進路につながる資格取得 ③ 生徒の変化を見逃さず、いじめ・暴力を許さない学校 ④ 生徒が主体的に取り組む校友会活動・学級活動・クラブ活動 ⑤ 卒業後の社会的自立と進路希望の実現全日制進路室との連携 ⑥ ユニバーサルな学習環境の整備	

学年	目標	キャリア教育	ホームルーム活動	生徒会活動・部活動等	各教科
1 年	「自己理解」 基本的生活習慣を確立し、自己を振り返って、周りの人間との関わりについて考える。また多様な生徒に対して理解を深め、お互いを尊重し合う態度を養う。	・仕事と学業の両立を通して社会性を養い、地域に貢献できる人材を育成する。また基本的な生活習慣の確立と基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。 ・自己を肯定的に理解し、他者とのコミュニケーションをはかり、様々な職業について理解し、自らの進路実現に向かって努力する。	・各学年において、ホームルームにおける様々な取り組み（定時制祭準備、生活体験発表大会準備、百人一首大会、文集作成、その他）を通して、自己理解を深め自己肯定感を養うとともに、他者との協働を体験するなかで、相互に助け合い、尊重し合う関係性を育む。	・生徒の集団内における自主的、自治的な活動を通して人権尊重の精神や道徳性を身に付けさせる。 ・生徒生活体験発表会や校友会活動などの行事を通して、自他の存在感を実感し、適切な判断ができる人間関係形成能力を育成する。	国語 ・様々な文章を読み自己の生き方と社会の在り方を考え、他者を尊重し、他者と共生することのできる力を育てる。 地理歴史 ・民主的、平和的な社会の一員として、責任ある行動をとるための資質を養うとともに、人間としての生き方を追求する。 公民 数学 ・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、知的好奇心や豊かな感性、粘り強く考える態度を含め、創造性の基礎を養う。 理科 ・基礎基本的な学力を身に付けるとともに、事象を数学的に考察し、論理的に表現する能力を高め、生きる力を養う。 保健体育 ・公正・協力・責任等に対する意欲を高めさせる。また競技等を通してルールやマナー遵守する規範意識の向上を計る。 芸術 ・芸術を鑑賞することで豊かな感性を身に付け、他者への理解を深め、新たな自己を発見し、表現する能力を高める。 外国語 ・異文化理解を深め、多様な価値観を尊重する態度を養い、積極的に幅広い人間関係を築くことの大切さを理解させる。 家庭 ・様々な価値観や生き方があることを認め、自他共に個性を尊重し、多様な人々と共生していく態度を確立する。 情報 ・情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を身に付ける。 商業 ・ビジネスの意義や役割について理解し、諸活動を主体的・合理的に行い、創造的な能力と実践的な態度を育てる。 総合的な探究の時間 ・自己分析から課題を見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、他者とのやりとりから得た知識などを整理し、論理的にまとめる。 ・表現する力を身に付け、探究活動に取り組むなかで他者とのコミュニケーションを深め協働し、相手の良さを認め、自己実現を図る。
2 年	「社会的自覚」 自己と社会との関わりという視点から学校で学ぶ意義を考える。また自己の価値観や職業観を養い、仲間を理解し信頼し協力しあえる態度を培う。	・1 学年においては、金融教育を実施し金融リテラシーを高め、現代社会の経済活動を理解し、対処できる能力を育てる。			
3 年	「自己自律」 自己の歩みを多角的にとらえ、自律への基盤をつくる。また社会の一員としての在り方・生き方を考え、自立的・主体的に行動しようという態度を養う。				
4 年	「自己実現」 生徒間や地域との連携を深め、地域社会に貢献する。また法令を遵守し、社会人としての自覚を養い、感性豊かな生徒を育成する。				

家庭・地域 との連携	・ホームページや定時制通信など通して、学校の取組を積極的に発信することにより理解を得る。 ・PTA、同窓会、教育振興会などを通じ課題を明らかにするとともに協力関係を築く。 ・学校評価を通じ毎年の活動を評価・改善することにより地域社会や家庭の理解と協力を得る。
---------------	---